

2011年(平成23)2月

カルメル  
**霊性センターニュース**



**2011年2月**

**262号**

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

—— バルバロ訳 ——



## 第一卷

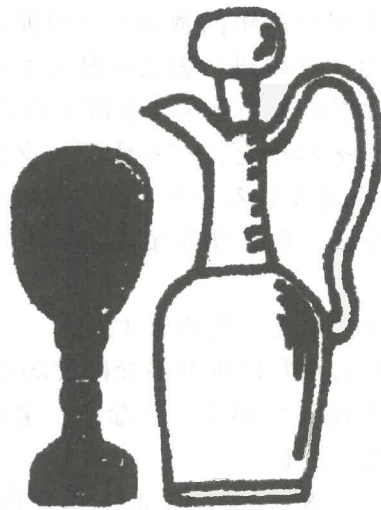
### 第二十章 孤独と沈黙とを愛する

#### 1 散漫を避ける

自分のことを反省するために適当な時間をつくり、神から受けた恩恵をしばしば考えなさい。新奇なことから心を離れさせなさい。頭を疲れさせる問題ではなく、心に痛悔を起こさせることについて黙想しなさい。あなたが、むだな会話や用のないつきあいを避け、珍しいことやうわさ話を聞こうとしなければ、よい黙想をするための十分な時間があるであろう。もっとも偉大な聖人たちは、努めて人々とのつきあいを避け、隠れて神に仕えるのを喜びとしたのである。



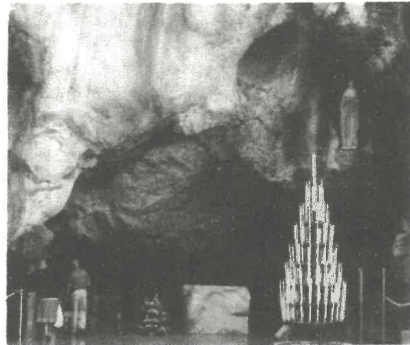
# 心の泉



自分のことを忘れ  
かえりみない  
マリアの純粹さ

これこそが  
マリアのうちで

神がご自身の愛を  
注がれるようにさせました \*



ルルドの洞窟

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd—

2月11日は「ルルドの聖母の祝日」です。ベルナデッタが「美しい貴婦人」と呼ぶ方は、ご出現の四年前教会が「原罪なく宿られた方」と宣言した神の母マリアでした。神の母が教会の教えもろくに学んでいない無学な、貧しい娘に現れるはずがないと司祭をはじめ人々は信じませんでした。ご出現は十八回に及び、そのつど、ベルナデッタは無原罪のマリアの美しさに魅せられ、「その方を見ていると自分の穢れに泣けてくる」と言っていました。自分のことを忘れ、かえりみないマリアの純粹さ、清さでした。

マリアよ、わたしはあなたを眺めます。

あなたの祈りはわたしたちに祈りがなにであるか教えてください。

自分のうちになにも残しておくことなく、全存在をもって神へ向かう動きであることを。

わたしたちはたびたび落ち着かず、心配事を抱え込み、自分の傲慢さ、弱さにふさぎこんでしまいます。

マリアよ、あなたの平和のマントの中にわたしを守ってください。

あなたの純粹な信頼は、わたしの信頼を清めます。

沈黙のうちに あなたのそば近くとどまり あなたといっしょに

あなたが安らぎを得ている神のみことばを

あなたと一緒に聴かせてください。

伊従 信子  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『神と親しく生きる いのりの道』聖母の騎士社

## エデンの園 (4)

くのり  
九里 彰

長い時間をかけて  
人間は ハッピーになることを 考えて来たのに  
アンハッピーになることは こんなにも  
すさまじく早いことなの

前回見たように、幸せを求める人間のエネルギーが文化文明を大きく成長発展させてきたとしたら、その同じエネルギーが一挙にマイナスに作用し始めたということであろうか。上の言葉の後は、こう続く。

たった一つのパンを わけあう友もなく  
みんな死んでゆくよ  
文明というものが 生命をふみつぶして  
地球をつつんでしまったのよ

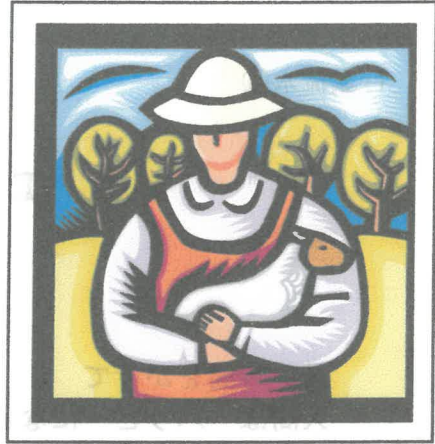
人間を幸せにするはずの文明が、人間を不幸に陥れて行く。それは、自然破壊や環境汚染、公害や地球温暖化などの現象に如実に現れている。より豊かな、より快適な生活を求めれば求めるほど、希少な植物や弱い動物は絶滅してゆく。贅沢に慣れた人々はちょっとした不足や不自由さ、不快さに耐えられなくなり、わがままな子供のように振る舞う。

「たった一つのパンを わけあう友もなく、みんな死んでゆくよ」というのは、自分だけの幸せを求める人間の在り方、生き方の行きつくところなのだろうか。その手には、しっかりと「一つのパン」が握りしめられている。大勢の人が周りにいるのに、「わけあう友もなく」、一人ひとりが孤立している社会。それは、まさに楽園喪失の原罪の物語にさかのぼる。

野の生き物の中で最も賢い蛇に女は答える。

「私たちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてはいけない、死んではいけないから、と神さまはおっしゃいました」。蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ」。(創1:2~4)

## ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (140)



### 私たちの命を友のために捨てること

良い羊飼いは、羊のために喜んで命を捨てます (cf. ヨハネ 10:11)。イエスの足跡をたどる霊的指導者として私たちは、人々のために命を捨てるよう呼ばれています。この捨てるということは、特別な状況では、他者のために死ぬことを意味するかもしれませんが、けれどもそれは、何はさておき、私たち自身の命を――私たちの悲しみと喜び、絶望と希望、孤独と親密さの体験を――、新しい命の源として他者に役立つものとするを意味します。

私たちが他者に与えることのできる最大の贈り物の一つは、私たち自身なのです。私たちは彼らに慰めと安らぎを与えているのです。特に危機的状況にある時に、次のように言うことによって。「恐れなくて、君がどのように生きてきたかを僕はすべて知っている。僕は君と一緒に生きて来たんだから。君は一人ぼっちではないんだよ」。こうして、私たちは、キリストのような羊飼いとなるのです。

(0414)

### 私たちの命を失うことと得ること

命の偉大なパラドックスは、命を失う人々がそれを得るということです。このパラドックスは、ごく普通の状況においても目に見えるものとなります。私たちが友達にしがみつくなれば、友達を失いますが、その関係において独占欲が強くなければ、多くの友達を得ることでしょう。私たちが探し求めるものが名声である場合、それはしばしば、手にするやいなや消え失せます。しかし私たちが人に知られようと望まないならば、死後ずっと思い出されるかもしれません。私たちが中心にいよいよと望むならば、簡単に隅に追いやられるのですが、いなければならぬ場所がどこであろうと、自由であるならば、しばしば私たちは中心にいるのです。

他者のために命をただで与えることは、人間のあらゆる行為の中で最も偉大な行為です。それは、私たちに命を得させることでしょう。

(0430)

(九里 彰訳)

## 年間第5主日 (A) (マタイ5:13-16)

山上の垂訓は真福八端で始まっています。貧しい人々、義に飢え渴く人々、泣く人々、心の清い人々、平和を実現するために働く人々、義のために迫害される人々、これらの人々は全て神の国で祝福され、大いなる報いを受けると述べられています。

次に山上の垂訓はこれら祝福された人々の応え方について述べています。“あなたがたは地の塩である、あなたがたは世の光である。”とされています。祝福された者は皆一つの責任を持っているのです。神の国でキリストの弟子として、その神秘体の一人として生きることは大きな責任を持つことです。真福八端の後でイエスは言われます。“あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。”

キリスト者の使命は地の塩になることです。忍耐し、和解し、よい味をつけ、意味ないところに意味を見出し、希望のないところに希望を与え、周りの人々の生活をよりよく幸せにすることです。私たちはまた世の光とも言われています。全ての人々の光となるべきです。キリスト者の共同体の利益だけではなく、周りの皆のために光とならなければなりません。現代の深刻な問題の一つに宗教間の対立があります；ローマン カトリックとプロテスタント、ローマン カトリックと東方教会、ユダヤ教とイスラム教、イスラムとヒンズウ、イスラムのシイア派とスンニ派などです。私たちは世の光となるように召されており、私たちの主イエス キリストこそ全ての人を照らす真の光です。

イエス キリストは全世界の真実の光です。キリストは彼に従う人々の生活の光です。キリストの弟子たちは聖パウロがフィリピ書で勧めているように、“清い者、とがめられるところのない者となり、世の光として輝くように” なりましょう。

キリスト者は暗い世の中の松明です。人々が私たちの行いを見て神を賛美するように輝きましょう。自分を誇示することではありません、いのちと光をもたらすことです。

聖書は、神の姿とその創造の目的を示しています。真福八端の中で、悲しむ人を慰め、貧しい人や飢えている人を満たす神の姿を見ます。世の光となることは、この神に従うこと、社会に正義をもたらす、人権を擁護し、平和と和解のために一心に働くことです。

“呪いの言葉をはくことを あなたのなかから取り去るなら

飢えている人に心を配り 苦しめられている人の願いをみたまなら

あなたの光は、闇の中に輝き出で あなたを包む闇は、真昼のようになる。

(イザヤ 58—8)

(Sr. Paulina)

年間第六主日A マタイ5, 17-37

「言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさってなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない」(マタイ5, 20)。

上記の言葉に続けて、イエスは、「あなたがたも聞いているとおり」で始まる律法逆者ファリサイ派の人々が目標とする義と、「しかし、わたしは言うておく」で始まるイエスがご自分の追従者たちに求める義の実践の質の相違に触れています。その相違の指摘は、大きな飛躍、修正、あるいは厳格化とも聞こえる響きを特徴としています。このイエスのお言葉の響きを、わたしたちはどのように聞き、受け止めているのでしょうか。今日の福音の御言葉は、このわたしたちの心の構えを明らかにしてくれるものでしょう。

この御言葉を前にして、御言葉に生きる決心をした者すべては、二つの質問を自らにするべきであると思います。第一は、わたしたちの手の中で、福音、つまり、「喜びの知らせ」が、しばしば、背負いきれない重荷を自他の肩に負わせる律法学者たちのやり方(マタイ23, 4)の焼き直しになってはいないか。福音を倫理法則に変質させ、わたしたちは「キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います」(ガラテヤ5, 4)、そんな状態にいるのではないのか。また、もう一つ自分に問うべき質問があります。それは、イエスのもたらす展望の新鮮さをどのように理解しているのか、と言うことです。イエスは、天の国、人間の能力や価値観ではうかがい知ることのできない世界、天の国を今日の命の中で生きる世界を、わたしたちの目の前に開いてくださいます。そして、イエス自身が、天の国の新鮮さの中に生きておられます。この新鮮さから、古い人間には厳格すぎると受け止められてしまうかもしれない要求も生まれてくるのです。わたしたちが自分に問いかけてみるべき質問とは、イエスの新鮮さの中で誕生し、そして、わたしたちのために新たに開こうとしている展望の偉大さから誕生する厳格さを、迂回しようとしているのではないのか、と言うことです。このような発想は、イエスがわたしたちのために開く道の偉大さに接近するため必要な労苦、犠牲を、不可能なもの、不必要なものと呼ぶ臆病さにわたしたちを閉じ込め、イエスの御言葉の解放する偉大さを前にして、優柔不断、現状肯定、現状維持の生活とその文化、発想への譲歩を、福音的と、うそぶいているのではないのでしょうか。「しかし、わたしは言うておく」と宣言されるイエスに眼を注ぎ、その愛と誠実さに信頼して、新しい生活に踏み出すことが、待たれています。

ルカ 渡辺幹夫



\*\*\*\*\* みことばのひびき \*\*\*\*\*  
年間第7主日 (A)

「あなたがたへの命令はこれです、『敵を愛し、あなたがたを  
迫害する者の為に祈りなさい』」(マタイ5:38~48)

**あなたがたの敵を愛しなさい** 世界の多くの宗教と異なって、キリスト教はその信奉者に敵への愛を要求します。「敵を愛し、あなたがたを迫害する者のために祈りなさい。それはあなたがたが天におられる父の子であることを示すためである。天の父は、悪人の上にも善人のためにも太陽を上らせる」。

わたしたちは復讐のおきてに従いやすくありませんか？ 暴力や復讐のおきてのためにどれほど多くの戦争が行われ、どれほど多くの町が砲撃を受け、どれほど多くの家族や共同体が仲たがいしているのでしょうか？ イエスは私たちの態度の修正に生活の改善をもたらします。イエスはわたしたちにゆるしのおきてを、敵への愛のおきてを与えます。それは、その時代の人たちには驚きのおきてでした、彼らは旧約の復讐のおきてに従っていたからです。福音は規則や規律より精神を優先します。悪は悪によってや力の均衡によっては打ち負かすことはできません。復讐や報復は悪を増大し、暴力や不正を一層悪化させるだけです。イエスの勧告は善で悪を、愛で敵を打ち負かすことです：天におられる父の子であるために、あなたの敵を愛しなさい、あなたを迫害する者のために祈りなさい。このようにキリストはおきてに新しい次元を、新しい精神を与えます。それは憤りや復讐とは反対のものです。

**愛の最大の証拠** なぜ敵を愛することがそれほど重要なのでしょうか？ それは私たちが善人も悪人も、正しい人も不正な人も同様に愛してくださる「天の父の子ども」である証明だからです。私たちを愛する人を愛することは当然なことです。全ての宗教や文化的伝統の人、また罪人でさえそのようにします。愛の最大の証拠は私たちを憎む人、害する人、私たちを励ますことも評価することもしない人を愛することです。キリスト教の真の試金石はこのような人たちを愛することにあります。全ての人間は聖なるもので、善であれ悪であれその人を愛することは神的なことです。愛は完全へ導き、「天の御父が完全であるように」私たちも完全でなければなりません。

**イエスの愛** イエスは彼の敵が自分を毘にかけ、はずかしめ、十字架にはりつけにすることをよく分かっていました。イエスが愛の最大の証拠を示したのはここにあります。苦痛の中十字架にかけられながらイエスは敵のために「父よ、彼らをゆるしてください」と祈りました。彼の愛は偽りの感動やうわべだけの感情から出たものではありません。それは心から出ました。愛する意志から出ました；それは怒りや復讐への自然の傾向を征服し、人々をありのままに受け入れる決然とした愛でした。

あるとき一羽の雀が白い薔薇に恋をしました、しかし薔薇は「もし私が赤くならないならば、あなたを愛することはできないでしょう」と鳥に言いました。雀は深く考えて白い薔薇を赤くする方法を懸命に探しました。次の日の夜明けに、雀はとげで自分を刺しその血を薔薇に流すという素晴らしい考えを思いつきました。その愛する仕事をやり遂げたとき、薔薇は赤くなり、雀は薔薇に寄り添って息をひきとりました。

イエスは彼の行為によって愛とゆるしの模範を示しているだけでなく、更にもっと多くのことを行っています。敵のために祈っています。私たちの祈りを真実のものにしましょう。私たちを迫害する人達を愛しましょう。そして誰かを憎みたいときにはその人のために祈りましょう。  
(Sr. Paulina)

年間第八主日A マタイ6, 24-34

「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない」(マタイ6, 24)。

イエスは、このように断言されます。そして、使用される用語も大変荒っぽく響くものです。「仕える」と訳出された動詞は、「奴隷として仕える」、むしろ「何かの奴隷である」、自由を剥奪された奴隷の状態に視点があわされ、「神に仕える」と「富に仕える」との間の妥協のなさが、強調されています。

現代のわたしたちキリスト者が生きている雰囲気とは、むしろ、「神に仕える」と「富に仕える」を両立させようと、人間としての知恵や経験を活用して模索しているのではないのでしょうか。次のような記事を読みました。「一つの現象が、今日、キリスト者の大多数に、場所、あるいは、社会的、経済的条件、年齢の多様性にもかかわらず、共通して見られると思われる。その現象とは、倫理的選択や行動評価を前にする際の、混乱、不安、方向性の喪失である。多くの人々が、基準となるものを喪失しているわけではないであろう。特に高齢者たちや厳格な教育を受けた人たちは、伝統的倫理規範の刻印を強く保持している、しかし、内面化され、把握され、愛されているとは限らない。時として、神からの罰、報復への漠然とした恐怖に矮小化されている。そのため、彼らは、神の愛への開きから来る神の子の自由を味わってはいない。他方で、世俗化された社会が、その価値観の行動基準をますます法制化し、圧倒的な圧力でキリスト者にも押し付けてきている。その結果、罪やその重大さは相対化され、魂からは奉仕への寛大さや熱意を剥奪され、倫理の感覚は、本能的衝動、好きなことや満足させるものを正当化することや、『多くの人々がしているから』と言う逃げ口上の中に、希薄化されている。しばしば、キリスト者は、どのように、あるいは、なぜ選択するのかを知らない。実生活において、告白する福音との首尾一貫に成功してはいない。多分、このことに十分気付いてもないし、この世の行動基準に迎合してしまっている」。このような人間の知恵、価値観の展望内だけで「神に仕える」と「富に仕える」を妥協させようとするなら、その結果は、「富に仕える」に傾いたものにならざるをえないのです。このようなわたしたちにイエスは福音を語られます。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」。「神に仕える人に、富も、また、その人に仕える」、と言えるのではないのでしょうか。 ルカ 渡辺幹夫

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (44)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### メディーナ・デル・カンポからヴァヤドリド (1)

私たちはすでに、旅行中にヨハネ修士の上に起こった出来事について、いろいろ話して来ました。

1568年8月9日から10日にかけての夜、新しい修道院を創立しようとしていた聖テレジアと十字架の聖ヨハネと修道女たちの群れは、メディーナ・デル・カンポからヴァヤドリドへの道を進んでいました。

とても話し上手であった十字架のヨハネは、神のすばらしさについて、すなわち、神の善性や神の慈しみや神の美しさについてみんなに話していました。旅はそれによって短くなりました。修道女たちは彼のことをすでに少し知っていましたが、それ以来、彼のことを「神のアルキーボ（文書保管庫）」、神のヒワと呼ぶようになりました。なぜなら彼は神の神秘について知っているからであり、また主の卓越性を美しく歌い、他の人々に喜ばれるからです。

十字架のヨハネという人は、神について語るとき、神からの恵みに満たされ、その恵みがあふれんばかりでした。それは、彼の典型的な特徴の一つです。

メディーナからヴァヤドリドへのこの旅の初めに、人々の創作なのか、史実に実際基づくものか、本当に起きたことなのか論議されているテレジアと聖ヨハネのあの逸話があります。

大変権威のあった聖テレジアのシルベリオ神父は、これを認め、史実に基づくものとしています。

彼はこう言っています。「それは、私が史実に基づくとみなし、スペイン人の知識の宝となって久しい一つの逸話です。

ある機会に、おそらく聖テレジアがメディーナからヴァヤドリドの創立のために出発した時、—その時、聖人は25歳の年齢になっていた—、すなわち、新しい修道院に派遣されることになった他の修道女たちと共にピスエルガという町に出かけようとしていた時、ある狡猾な者が、創立者の修母につきそう小さな修道士（訳注：ヨハネのこと）に会うので、ちょっとしたいたづらを仕組みました。こういうことに、スペイン人は絶えずたけていました。（続く）

## …ケリトの水にうるおされて…

### カルメルの聖人たちの祈り

#### 23. 福者テトス・ブランズマ (1881-1942) — その2

福者テトスは、1881年2月23日、オランダ北部のフリースラント州(フリジア地方)に生まれた。オランダではカトリック信者は少なく、当時、カトリック信仰が禁じられていたにもかかわらず、家族は熱心なカトリック信者であり、フランシスコ会に入会した兄と、修道女になった三人の姉妹がいる。彼自身、幼いころから司祭になることを志し、1898年9月、オランダ南部のボクスメルで履足カルメル会に入会。修練期の間、アビラの聖テレジアの著作に親しむようになり、その翻訳を手がけ始めた。1905年司祭叙階、1909年、ローマの教皇庁立グレゴリアン大学で哲学博士号取得。オランダに帰国して、神学生の養成に携わる。教授職の傍ら、カルメル誌を創刊し、1916年には、アビラの聖テレジアの著作の翻訳を進めるためのグループを結成、他方で地元の新聞の編集者に選ばれるなど、ジャーナリズムの分野でも活躍する。1923年に創立されたナイメーヘン・カトリック大学の設立にも関わり、哲学と神秘神学史を教えた。

ジャーナリストとしては、世界の善益のためにメディアを積極的に活用し、真実を公言してナチスに抵抗、ナイメーヘンでは学生から慕われる教授であり、神秘神学の講義においては、自身の深い祈りの生活の実りを語っていることを感じさせていた。カルメル会においては、共同生活を重んじ、すべての勤行に参加した。十字架の神学に深い興味を抱いており、それは、彼の未来を準備することとなったようである。

1942年1月、ナチスにより逮捕される。彼は自分を逮捕しに来た人をも許し、イエスの足跡に従った。ナチスは彼を最も危険な敵対者とみなし、強制収容所を転々とさせた。獄中で、詩を書き残した他、アビラの聖テレジアの伝記を書き始めたが、未完のまま終わっている。8世紀にフリースラントの地に初めて信仰を伝え殉教した聖ボニファチウスをまつる教会のために書かれた十字架の道行きの黙想も、獄中でしたためられたものである。1942年7月26日、ダッハウ収容所で石炭酸の注射により殉教、訪れるところには、どこにでも——ダッハウにさえ——幸福をもたらしたその生涯を終えた。1985年11月3日、教皇ヨハネ・パウロ2世により、列福。聖テレジアと十字架の聖ヨハネを深く愛したテトスの列福は、履足・跣足の両カルメル会にとって大きな喜びとなった。



福者テトス・ブランズマ

—— 祈り ——

愛する主よ、あなたを見上げるとき  
愛をこめて私をご覧になっておられるあなたの目が見えます。  
私の卑しい心の中に愛があふれるように注がれ、  
あなたがどれほど忠実な友でいらっしゃるかを知るので。

悲しみの杯を、私はすでに見ています。  
あなたの愛のために、私はそれを受け入れます。  
あなたの苦しみに満ちた道を私も歩みたいのです。  
それは、私の知る限り、神に至りつくための唯一の道ですから。

私の魂は、平和と光に満ちています。  
苦しみのさなかにあっても、この光は明るく輝いています。  
苦しみにあってもこそ、あなたは、私の乞い焦がれる心を  
あなたの御胸に憩わせてくださるので。

私をここで一人きりにしておいてください、  
太陽の光が決して輝くことのないこの独房の中に。  
私に話しかける者が誰一人いないなら、  
金色に輝くこの沈黙は、私を自由にしてくれるのです！

一人きりであっても、私は恐れませんが。  
おお主よ、あなたは今以上に近くにいてくださったことはありませんでした。  
甘美なるイエスよ、どうか私とともにとどまってください！  
私は、もっとも深い平和を、あなたのうちに見出します。



\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる( I 列 17:3-4) 」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

大晦日、新聞のコラムに次の如く言葉を見つけました。

「ためらはず十年日記求めけり」 (水原春郎)

「初暦知らぬ月日は美しく」 (吉屋信子)

何と、10年とは。とてもだめだ。何処か途中で大半の余白になる。

そうか、まだ訪れぬ知らぬ月日は美しいのか。

どちらも気持ちを惹きました。

新年を迎えるに当たって、私たちは新しい気持ちでいろいろなものを新しくします。昔の母たちの時代は、元旦には仕立ておろしの着物を着たり、新しい帯をしめたりしたのでしょうか。私の記憶の中にも、幼い日のお正月に新しい肌着や新しい下駄などを下ろしてもらったこと、台所のふきんや菜箸などが新しくすべてがピカピカになっていたことなどが、おぼろげな断片として遠い絵画のように残っています。

例えば、カレンダーは旧年のものを引き続き使うことはあり得ず、これは文句なしに新しくなります。

日記帳もたぶんその類であるのでしょうか。

新年を迎えて新しい頁に新しい気持ちで筆を下ろすことは、確かに身も心も引き締まって、希望の前進が感じられるに違いありません。

しかし、実は私の日記はそうではなく、年度には頓着せず一冊のノートが終わるまで、ずんずんと書き続けて冊数を重ねました。

戦後間もない昭和 22 年のお正月元旦に、父からお年玉として日記帳を貰いました。当時の子どもにとってはずいぶん上等と思えた大学ノートで、父は表紙に墨の筆書き横書きで、日記、1947年、昭和 22年、と大きく記して書きたいことを書いたらいいと云って手渡してくれました。

この年に私は 10 歳になりましたが、当然旧かなづかいであり、「てふてふ」「どぜう」「學校」の体で人生初めての日記なるものを記し始めたのです。

その後、紆余曲折を経たとはいえ、また書かない時期も 10 年位はあったのですが、今日までおよそ半世紀ほどのあいだ日記を書き続けたこととなります。

14, 5歳の頃でしょうか、アンネ・フランクの「アンネの日記」を手にしてさまざまな衝撃を受けましたが、日記というものに対しても大きく目をひられ、大きく心をひられました。

アンネが日記を「キティ」という名で呼びかけて、心の内を打ち明けている

ことに魅了され、私も、人間かどうか分からないとしながらも、固有名詞をもって「あなた」を創り上げました。

その名を呼び、語りかけ心打ち明けた数々の日々は、今思えば本当にいとおいしいのですが、しかし、それはまた青春の何という苦しい狭い道程であったかとも思うのです。

この固有名詞は、その後私自身結婚という厳然たる現実を前にした時、或る種虚像の感を余儀なくされ、決別、抹殺したことは、人格形成のプロセスとしても強く心に覚えていることです。

その結婚から 10 年後、私は全くもって思いもよらなかったお方と遭遇してしまい、ここからの日記は、主イエズス と呼びかけ語り合っただけが祈りの領域となって 20 年余り、数多の冊数が重なり重なりました。

そして、今現在、私は市販されている既成の三年日記を使っています。70 歳を機になぜかこの運びとなりました。今年も三年日記二冊目の二段目となります。

人生も晩秋を迎え、親しんだ人たちの彼の国への旅立ちが多くなりました。私自身も私を長子とする 5 人兄弟の 3 人までが他界し、この同胞（はらから）の死は体内の内臓の死ともいうべき肉体的な喪失感をもたらし、彼の国への想いは否応なく近いものとなりました。旅立ちの身仕度は自ずとおとずれます。押し入れに堆く積み上がっていた歴大な冊数の日記帳も、或る日、意を決して全て一切を燃えるゴミとして運び出しました。（ただ、1947 年のノート表紙だけはどうしても今も手元に残しています）

三年日記という体裁に変わって、及んでは中味、心持ちも以前とは変わったと感じる現在、毎日僅か 150 字ほどの文字を書き記しながら私は心深く気が付いています。今日という一日への意識が深まっていること、今日ということの定義とさえ云いたいものが心に刻まれていることです。

この日々の営みは若い日のように壮大なテーマともならず、自分を満たそうとする欲求ともならず、乗り越えようと挑む力ともならず、むしろ恬淡としたものですが、好日であるのです。この好日に辛く悲しいこと、悩み苦しむことが絶えることはありません。そして又、深い喜び、ささやかな幸福もこの好日のものですが、この全てがかつて契りを結んだ主イエズスとともに御父の思し召しの内にあるのだとすれば、そのひとつひとつを切なることとして心底徹して深めていく他ないのだと思ひ知ります。

満たそうとせずして満ち来る泉の中で、私は、今日 救われます。

# もう一度

よい年をお迎えになりましたか？

1年の終りになると、人は何かしめくくりをして、ふるいものを捨て、新しい年をフレッシュな気持ちでスタートしたいと思うものです。（その内藤とか量的なものは、人によって違いますし、それを続行する時間的なものにも段差がありますが）しかし とも角、古い よくない ものはぬぎ捨てて、新しい事はフレッシュな気持ちでスタートしたいと思うものです。けれども その接続時間は人によって異なり、エンジンは数日で止まるか、あるいは長時間持続するか・・・

その古いものを ぬぎ捨て、新しくなりたいために、“モノ”で表したのが“お歳暮”、そして“お年玉”、の習慣が自然に出来上がっていったのです。

大人はさておいて、子供にとっては、この、目に見える“お年玉”という、善意のやりとりが、フレッシュな発動機を動かすモトとなるのです。そこから“やる気”というエネルギーが湧いてくるものなのですが・・・

では、私たちカトリック者は、神さまから頂いた、あるいはすでに頂いているものを、プレゼントとして自覚出来ているのでしょうか？

“当たり前”というぶ厚い外套が蔽ってしまって、ある時にはそれがマンネリ化してしまっていないのでしょうか？

“マンネリ”とは“あゝ、当たり前、またそうなんだ”という具合に、感動のエネルギーが湧いてきません。 ということは、行動化のエネルギー（力）が湧いてこなくて、機械が動かせないのです。

そんなことに毒されないで、この新しい年から再び生まれ変わって、小さなことでもよいから、新しく出直してみようではありませんか？自分にとっては小さいと思われることでも、神さまから見れば大きなことなのかも知れません。

今年もまた、“小さなこと”から もう一度、やり直してみようと思っています。

お告げのフランシスコ姉妹会 S r. 熊田 照子



主の奉献 2月2日 (水)



「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり

この僕を安らかに去らせてくださいます。

わたしはこの目でああなたの救いを見たからです。

これは万民のために整えてくださった救いで、

異邦人を照らす啓示の光、

あなたの民イスラエルの誉れです。」

Peter Paul Rubens  
Presentation in the Temple  
(Deposition - right panel)

# いのちの言葉 1月

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、  
一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、  
すべてを共有していた。

(使徒言行録 4・32)

このみ言葉は、エルサレムにおける最初のキリスト者共同体がどのようなものであったか、使徒言行録の著者が私たちに示している箇所の一つです。この共同体には、並外れた新鮮さと精神的活力、祈りと証し、そして特に「大きな一致」という特徴が見られました。この一致は、イエスがご自分の教会のはっきりとした印、豊かさの源として望まれたものです。

洗礼の時、イエスのみ言葉を受け入れたすべての人に、聖霊が与えられました。愛と一致の霊でおられる聖霊は、復活されたイエスとすべての信者とを一つに結び、また民族、文化、社会層の違いを越えて、信者同士も一つにして下さいました。

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。

それでは、この一致について、さらに詳しく見てみましょう。

聖霊は何よりもまず、信者の間に心と考えの一致をもたらし、生き生きとした兄弟的な交わりの内に、一致を困難にしている様々な感情を乗り越えられるよ

う助けて下さいました。

実際、一致を妨げる最も大きな要因は、私たちの個人主義です。それは自分の考えや物の見方、やり方に対する執着です。

この自分本位な姿勢から、壁が生まれ、私たちを互いに孤立させ、異なる人々を排斥するようになってしまうのです。

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。

聖霊の働きによって生まれる一致は、おのずと信者の生活に、具体的に表れていました。貧しい兄弟や姉妹と富を分かち合うことによって、心と考えの一致が具体的な連帯となって表れたのです。その一致は本物だったので、共同体の中では、一方で豊かな生活をする人々がいながら、他方では必要なものにも事欠ける人々がいる、ということは、考えられませんでした。

信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。

では、今月のみ言葉をどのように生きることができるでしょうか。このみ言葉の内には、イエスが心から望まれた、交わりと一致が浮き彫りになっています。その実現のために、イエスはご自分の霊である聖霊を私たちに与えてくださいました。

ですから、聖霊の声を聞きながら、あらゆる面で、この交わりにおいて成長するよう努めましょう。私たちの心の中にある分裂の芽を乗り越えることにより、特に霊的な面で成長しましょう。私たちがイエスに結ばれていることを望む一方で、個人主義的に振舞ったり、各々が身勝手に行動したり、裁き合い、排斥し合ったりして、分裂するならば、それは矛盾していることとなります。私たちが一致することを望んでおられる神様に、立ち戻る必要があるでしょう。

また今月のみ言葉は、「キリスト教の信仰」と「自己中心的な富の使い方」の間にある矛盾を理解する助けとなるでしょう。そして、私たちができる範囲で、貧しい人々と真の連帯を生きるよう、助けてくれます。

「キリスト教一致祈禱週間」が行われる今月、私たちはこのみ言葉に促されて祈りを捧げます。そして、諸キリスト教会の兄弟姉妹との「一致の絆」と「分かち合う愛」を強めることができるでしょう。私たちは、唯一の信仰と、洗礼の時に受けた唯一のキリストの霊を、この兄弟たちと共有しているのです。

キアラ・ルービック

今年も1月18日から25日にかけて、世界各地で「キリスト教一致祈禱週間」が行われます。テーマとなる聖書の言葉は「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」（使徒言行録 2・42）です。

キアラ・ルービックは、毎年「祈禱週間」のために選ばれたみ言葉に解説を付してきましたが、今月の「いのちの言葉」は、1994年1月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

#### いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

#### 連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: [tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ: [フォコラーレ](#)で検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolare.sito>

#### ●お知らせ

##### 関東：新年会

2010年1月10日(月・祝)14:00(13:30  
受付)

聖ウナチ教会・ヨゼフホール(四ツ谷)

# 新刊紹介



## ●イエスの聖テレサ—霊的な人々の母（新刊）

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究者である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円（税込み）

著者：トマス・アルバレス

訳者：松田浩一 神父（カルメル修道会司祭）

判型：B6 判並製

ページ数：188 ページ

ISBN：978-4-8056-0473-1

発行：サンパウロ

カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

# カルメル会の企画案内



## 1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2011年

4月15日～16日

6月17日～18日

9月 9日～10日

11月11日～12日

## 2. 奉獻生活者のための黙想会

2011年

7月31日(日)夕食～8月 9日(火)朝 中川博道神父

8月11日(木)夕食～8月20日(土)朝 今泉 健神父

12月27日(火)夕食～1月 5日(木)朝 福田正範神父

## 3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

2011年度共通テーマ《いのち》

4月28日 「いのちの充満 -復活祭の喜び-」 今泉 健神父

6月16日 「いのちの言葉」 福田正範神父

9月15日 「ほまれある長寿 -知恵の書4章8～9節について-」 ベルナルド神父

11月18日 「いのちであるお方とともに」 古川利雅助祭

2012年

1月26日 「永遠のいのち -霊から生まれた者は霊である-」 中川博道神父

## 4. 金曜黙想会カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

2011年

5月20日 「ご復活のラウレンシオ」 中川博道神父

7月 8日 「神の預言者聖エリヤ」 ベルナルド神父

10月28日 「福者三位一体のエリザベット」 古川利雅助祭

12月16日 「十字架の聖ヨハネ」 福田正範神父

2012年

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 今泉 健神父

## 5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅助祭、修練者

4月29日(金)16時～ 5月 1日(日)16時

7月16日(土)16時～ 7月18日(月)16時  
 11月25日(金)16時～11月27日(日)16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅助祭、修練者

10月8日(土)16時～10日(月)16時

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2011年 4月21日(木)～24日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2011年12月24日(土)～25日(日)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

テーマ：「私は神を見たい」

5月27日(金)20時～29日(日)16時 「聖霊に導かれて」

27日は夕食を済ませてご参加ください。

10月14日(金)20時～16日(日)16時 「祈り」

14日は夕食を済ませてご参加ください。

9. 待降節黙想会

12月 9日(金)夕食なし～11日(日)昼まで 指導：古川利雅助祭

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。  
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません  
 のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



# 「キリスト教の基本を学ぶ」

— 洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に —

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道 (カルメル修道会)

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)



朝のクラス <10:30~12:00> 夜のクラス <19:30~21:00>

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
15	1月21日	「キリストと共に生きる道」(1) 荒野に生きる道を探して	出エジプト記 20 章 申命記 5 章
16	2月4日	「キリストと共に生きる道」(2) 現代における生き方の模索	マタイ 6 章 12 節
17	2月18日	「キリストと共に生きる道」(3) 十戒の意味を探して	
18	3月11日	「主の祈り」 主と共に生きる道	
19	3月25日	「キリスト者の基盤」	使徒言行録 2 章 42 節
20	4月15日	「秘跡」 生きるキリストに伴われて歩む	

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>





## 「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

2011年2月22日(火)

2月25日(金)

聖書講座

## 「キリストとの親しさ」

—出会いの神学—

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして迎えます

2011年3月15日(火)

3月18日(金)

《時間》：(朝)火曜日 10:30~12:00 (夜)金曜日 19:15~20:45

《担当》：中川博道神父 (カルメル修道会)

《場所》：カトリック上野毛教会 信徒会館ホールに於いて

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

・ 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

3月19日(土)～3月20日(日)

渡辺幹夫神父

・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月 3日(土)～12月 4日(日)

松田浩一神父

・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(金)～10月 1日(土)

伊従信子師

【一般のための黙想】 (午後5時～午前9時)

5月 3日(火)～ 5月 5日(木)

新井延和神父

【青年のためのキリスト教霊性】 (午後5時～午後4時)

対象：40歳以下の青年男女

5月 7日(土)～ 5月 8日(日)

松田浩一神父

11月5日(土)～11月6日(日)

松田浩一神父

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

8月 3日(水)～ 8月11日(木)

松田浩一神父

8月18日(木)～ 8月26日(金)

九里彰神父

12月27日(火)～ 1月 4日(水)

新井延和神父

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

3月 5日(土) ～ 6日(日) 永遠の命	九里彰神父
5月21日(土) ～22日(日) 希望	新井延和神父
7月 2日(土) ～ 3日(日) 今日を生きる	渡辺幹夫神父
9月 3日(土) ～ 4日(日) 人を赦すこと	九里彰神父
11月19日(土) ～20日(日) ユダヤ人の王	新井延和神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日黙想 (午前10時～午後4時)

2月26日(土)	新井延和神父
4月30日(土)	渡辺幹夫神父
6月11日(土)	松田浩一神父
10月 8日(土)	九里彰神父
12月10日(土)	新井延和神父

・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

2月 9日(水) イエスキリストに学ぶ	アダミニ神父
3月30日(水) 悔い改めにふさわしい実とは	九里彰神父
4月13日(水) 復活の希望キリスト	松田浩一神父
5月11日(水) 聖霊の賜物	渡辺幹夫神父
6月22日(水) 三位一体	新井延和神父
7月13日(水) 幼子の心	九里彰神父
9月14日(水) 私たちの生活と判士の十字架	松田浩一神父
10月12日(水) ロザリオの祈り	渡辺幹夫神父
11月 2日(水) 死とは何か	新井延和神父
12月14日(水) 愛の生ける炎	九里彰神父



## 「カルメルの靈性に学ぶ」

### ～十字架の聖ヨハネの靈性～

1) テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ボスコ社）  
（いつからでも参加できます。）

2) 日時：毎月一回 14：00～15：30

**土曜日に戻します！**

2月26日（土）第2部20～21章

3) 講師：<sup>くのり</sup>九里 彰神父（カルメル会）



4) 場所：カルメル会宇治修道院 信徒会館集会室

《宇治カルメル靈性センター》

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel：0774(32)7456 Fax：0774(32)7457

# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

### 【参加者人数】

6人

### 【開催日】

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| ① | 2011年 | 1月21日(金)～22日(土)  |
| ② |       | 2月18日(金)～19日(土)  |
| ③ |       | 3月25日(金)～26日(土)  |
| ④ |       | 4月15日(金)～16日(土)  |
| ⑤ |       | 5月13日(金)～14日(土)  |
| ⑥ |       | 6月17日(金)～18日(土)  |
| ⑦ |       | 7月22日(金)～23日(土)  |
| ⑧ |       | 9月 9日(金)～10日(土)  |
| ⑨ |       | 10月28日(金)～29日(土) |
| ⑩ |       | 11月11日(金)～12日(土) |
| ⑪ |       | 12月16日(金)～17日(土) |
| ⑫ | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土)  |
| ⑬ |       | 2月10日(金)～11日(土)  |
| ⑭ |       | 3月16日(金)～17日(土)  |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2011）

「私たちの間にある神の国を探して」—今の時代に芽生える神との新たな出会い—

「神の国は見える形では来ない、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。  
 実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」（ルカ17章21節）

“混乱の時代” “行き詰まりの時代” “崩壊の時代”・・・と言われる時代の中にも、「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない。」

（イザヤ65章17節）という神のみ言葉は力強く響き始めています。第2バチカン公会議終了後やがて半世紀を迎える現代世界と教会の中に、新しい神との出会いは生まれ始めています。

2011年はこの「神の国の芽生え」を私たちが日常生活の中に探す光を共に探しつつ歩みたいと思います。

第1回	了	混沌の中に差し込む光（創世記1章）	中川博道神父（上野毛修道院）
第2回	2月26日（土）	主が示される地に向かって（創世記12章）	松田浩一神父（宇治修道院）
第3回	3月12日（土）	絶望の中の光（イザヤ43章、65章）	
第4回	4月9日（土）	新しい派遣（列王記19章）	
第5回	5月5日（木・祝）	新しい契約（エゼキエル36章）	今泉健神父（上野毛修道院）
第6回	6月11日（土）	神の国の芽生え（マルコ4章）	
第7回	7月18日（月・祝）	わたしの中に生きるキリスト（ガラテア2章）	
第8回	9月17日（土）	キリストの新しい旋（ヨハネ13章）	Srバウリナ（宣教カルメル修院）
第9回	10月8日（土）	新しい生活（改革）	
第10回	11月23日（水祝）	新しい生き方の根	

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会（地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分） \* 聖テレジア幼稚園隣接

\* 参加費 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約30名

\* プログラム  
 10:00～ 祈り・導入・黙想  
 10:30～ 講話【1】  
 ～ 黙想・（赦しの秘跡または面接）  
 12:15～ 昼食  
 ～ 黙想・（赦しの秘跡または面接）  
 13:30～ 講話【2】  
 14:45～ ミサ  
 15:30～ 茶話会・分かち合い  
 16:00 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル靈性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貞船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685



『カルメル山の聖母とカルメル会の諸聖人』  
(ピエトロ・ノヴェッリ画、1641年)

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。

講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



### 聖書深読センター

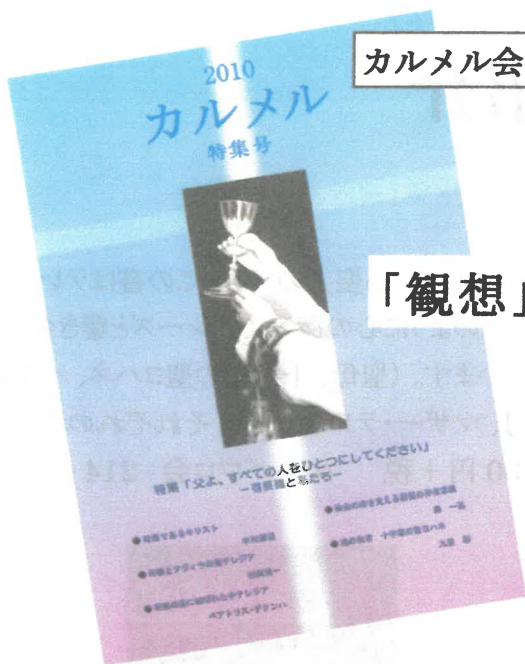
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)





「観想」を読むー

2010 冬 No.339

● 目次 ●

愛の断章 (18)	奥村一郎	57
小さくされたマリア様 ——マリアと私たち	谷口正子	50
「小さい道」の巡礼者 ——テレシズの修練者——三位一体のマリー	中山真里	43
死に臨む言葉 ——エディット・シュタインの アウシュヴィッツへの道ゆき (1)	須沢かおり	35
聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて 変容までの長い道のり マリー・エウジェヌヌ ——十字架の聖ヨハネに見る霊的旅路 (6)	編訳 伊藤信子	28
「どこにお隠れになったのですか」 ——十字架の聖ヨハネに見る霊的旅路 (6)	九里 彰	22
三位一体のマリアの歌 (2) 私は愛に溺れている	ペトロ・アロイジオ	16
カルメルの霊性の源流を探して ——その「公開」に見る生活 (2)	中川博道	8
馬屋の霊性 (8) 聖母マリアへのお告げ 1	高橋重幸	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンポスコ書店等) できます。定価は、一冊460円です。

- 送付希望の方は、600円【内訳 400円 (十送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- また、まとめて御購入希望の力は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460×5=2300円】、送料分【700円】) として、3000円を下記へお振込み下さい。

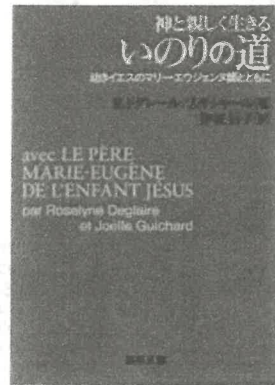
郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356)

# 新刊紹介

## ●「テレーズを愛した人びと」

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェンヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。伊従信子著 ¥1400円+税 女子パウロ会 214ページ



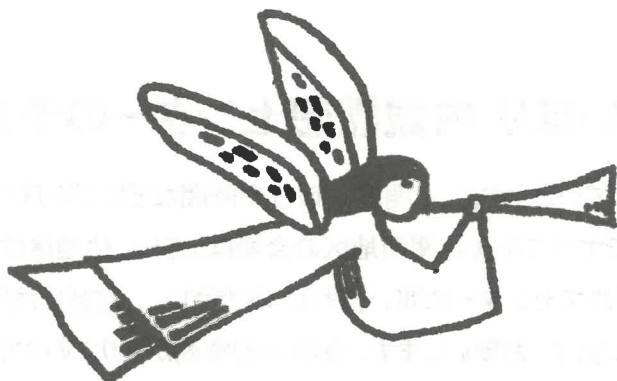
## ●「神と親しく生きる 祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに  
本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェンヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ  
送るメッセージ  
現代の狂騒の中で、大切な何かを見失って  
いないだろうか・・・ 真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレースル/J.ギシャール=著  
伊従信子=訳 ¥525 聖母文庫 207ページ

# 諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

## ※ お知らせ

2009年・10号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。

## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センターの予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

#### 2011年(6泊7日) 午後2時より 終了日午後2時迄

- Y1 02/14(月)-02/20(日) 神戸・須磨・ヨハネ  
K2 03/04(金)-03/10(木) 東京・小金井・聖霊会  
M2 04/03(日)-04/09(土) 兵庫・売布・女子ご受難会  
★N1 04/30(土)-05/06(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム
- O1 05/19-05/23 沖縄・伊江島、沖縄県人向け内観(4泊5日)
- K3 05/31(金)-06/06(木) 東京・小金井・聖霊会  
★N2 06/24(金)-06/30(木) 滋賀・唐崎・ノートルダム  
N韓 07/06-12 韓国グループ向け限定内観 滋賀・唐崎・ノートルダム  
Y2 07/18(月)-07/24(日) 神戸・須磨・ヨハネ  
S韓 08/13-19 韓国グループ向け限定内観 長野大鹿村・早々庵  
S1 08/21(日)-08/27(土) 長野大鹿村・早々庵  
M3 09/11(日)-09/17(土) 兵庫・売布・女子ご受難会  
N3 09/24(土)-09/30(金) 滋賀・唐崎・ノートルダム

# 真命山 2011年 - 祈りの集いのご案内

## 真命山の霊性

通年のテーマ：

典礼暦年間で教会とともに祈る



祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

## 自然

神はすべてを作り  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

## 祈り

## 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を  
分かち

## 交わり

指導者  
フランコ・ソットコルノラ神父  
(真命山院長)  
ダニエレ サルティ・サルトリ  
神父  
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先  
865-0133  
熊本県玉名郡和水町1391-7  
真命山諸宗教対話・霊性交流  
センター  
TEL 0968-85-3100  
Fax 0968-85-3186  
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も  
歓迎いたします。  
(要予約)



## リーゼンフーバー講座・集いの案内 2011年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

### ●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、

19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。

1月8日、15日、22日、29日

### ●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分

木曜日 18時～20時30分

上智大学内 Kulturl-HaIm 1階左の部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日～1月3日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

### ●坐禅接心

(上石神井)

2月5日(土)8時30分～6日(日)15時30分  
5,900円

### ●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内 Kulturl-HaIm 1階  
右小聖堂どなたでも。(但し、8月全休、  
10月20日、12月29日、祝日休)

### ●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時

上智大学内SJハウス第5会議室  
黙想、講話、ミサがあります。

1月15日

ロザリオの祈り 同日16時10分～50分

Kulturl-HaIm 1階右小聖堂

### ●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。  
(但し、祝日、8月10日は休。

8月24日は Kulturl-HaIm 聖堂)

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会

マリア聖堂 但し祝日、2011年1月4日は休み。

【水曜日】 18時～18時30分

上智大学内 Kulturl-HaIm 1階右小聖堂。  
どなたでも。但し、祝日休。

### ●黙想会

3月12日(土)10時～13日(日)15時

上石神井。一泊5900円程度。

### ●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と  
集い、ミサ(14時～18時)、上智大学  
内SJハウス第5会議室

1月22日(土)

### ●クリスマス会・ミサ



上述日程等、変更の可能性が  
あります。  
詳細等は、  
下記、リーゼン  
フーバー神父様  
のホームページ  
でご確認  
ください。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

### リーゼンフーバー神父キリスト教

#### 入門講座 2011年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 01/07: 霊の動きー福音による生き方  
01/14: 秘跡の恵みー毎日を養う信仰  
01/21: 教会の構造・典礼・歴史ー教会と共に歩む  
01/28: 信徒・司祭・修道者ー誰もが召されている  
02/04: 神の言葉ー神との日常的な対話と黙想の仕方  
02/18: 結婚と独身ー愛の道  
02/25: 仕事という人間の課題ー社会と教会に寄与して働く  
  
03/04: 人間の苦悩ー悪とは何のためか  
03/11: 死ーその実現と克服  
03/18: 人生の完成ー神の内に生きる  
03/25: 聖母マリアーイエスと共に生きた方



### リーゼンフーバー神父キリスト教

#### 理解講座 2011年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

#### 聖霊

01/18: 三位一体の神ー救いの構造から神内の存在へ

#### 教会

- 02/01: 信仰者の共同体ー教会の本質  
02/15: 救いのしるしと実現ー秘跡の意味  
03/01: 憐れみと愛の祝いー罪のゆるしとミサ  
03/15: 人間と世界の究極の未来ー終末の約束  
03/29: 信仰者の原型ー聖書と教会の教えに見られるイエスの母

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

上述日程等、変更の可能性があります。  
詳細等は、下記、リーゼンフーバー  
神父様のホームページでご確認  
ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2月12日(土)  
3月12日(土)

講話 伊従信子  
(2月3月は片山はるひの講話はありません。)

午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-32-35  
TEL(03)・3594・2247  
Fax(03)・3594・2254  
E-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)  
ホームページ(NEW)  
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。





## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel: 077-579-7580

Fax: 077-579-3804

Eメール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 了
- ② 4月29日(金)～ 5月 7日(土)
- ③ 6月 23日(木)～ 7月 1日(金)
- ④ 8月14日(日)～ 8月22日(月)
- ⑤ 9月 23日(金)～ 10月 1日(土)
- ⑥ 10月19日(水)～ 10月27日(木)
- ⑦ 11月14日(月)～ 11月22日(火)
- ⑧ 11年12月27日(火)～12年1月 4日(水) 予定

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月11日(金)～ 2月13日(日)
- ② 3月11日(金)～ 3月13日(日)
- ③ 4月 8日(金)～ 4月10日(日)
- ④ 5月20日(金)～ 5月22日(日)
- ⑤ 7月 22日(金)～ 7月24日(日)
- ⑥ 9月 2日(金)～ 9月 4日(日)
- ⑦ 12月 2日(金)～ 12月4日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月27日(金)～6月4日(土) 裏辻 洋二 師(イエス会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会) 松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)  
その他 若干名

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他：司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と7月30日～8月12日を除きます。)

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 神の恵みを生きる

## 聖母を母として生きる

最も大切なもの、その大切さを共有するとき、私たちはひとつになる。  
死に至るまで、大切にされた聖母を、イエスは弟子に与え、弟子は母とした。

2011年 召命黙想会

日時 **3月5日(土) 15:00~**

**6日(日) 15:30まで**

場所 : ノートルダム唐崎修道院  
(JR京都駅から30分)

指導 : 山内 十束 神父 (御受難会)

対象 : 独身女性信徒

費用 : 2,000円

締切 : 2月26日(土)までに

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

## 『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

### 「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

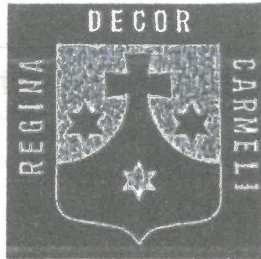
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。

### 編集後記

一月の末に、カルメル会の管区会議（本総会）が宇治で行なわれ、まず最初に新しい管区長（正確には総長代理）の就任式が行なわれた。会員が年々減少し、高齢化が進み、問題が山積していく中、就任式には新管区長にいばらの冠をかぶせ、大きな十字架を持たせるのがふさわしいように思われた。

宇治修道院の方でも次から次へと事件が起こり、院長はまるでヨブのような心境になっている。A神父が糖尿病で入院、手術。リハビリを始め、少し希望が湧いてきた矢先、今度はB修道士がトラックの荷台で作業中、大けがで入院。一昨日はC修道士の肺炎騒ぎ。今朝は、金沢の方から、D神父の手術、抗ガン剤治療とE神父の心臓病の検査入院について、電話連絡があった。電話室を出ると、「緊急事態発生！」とF神父から、A神父に胆嚢の緊急手術が必要との連絡を受ける。これから病院へ行かなくてはならない。

ヨブのもとに、一人の召使いが報告に来た。「ご報告いたします。…シェバ人が襲いかかり、略奪していきました。牧童たちは切り殺され、私一人だけ逃げのびて参りました。彼が話し終わらないうちに、また一人来て言った。「ご報告いたします。天から神の火が降って、羊も羊飼も焼け死んでしまいました。私一人だけ逃げのびて参りました。彼が話し終わらないうちに、また一人来て言った。「ご報告いたします。……」。(1:14~22 参照のこと)



## あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「3月号」製本日                      2月22日（火）                      上野毛教会信徒会館ホール 1 階  
午後 1 時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171